

キャラクター名  
獅沢弦都(ししざわ・げんと)

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	ヒーローA	カヴァー	ヒーロー
	パロール					
オプション			年齢	25	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	破壊	初期侵食率		44 %
出自	安定した家庭	経験	ヴィラン被害者	邂逅	幼子	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	38
肉体	1	1	3		2	7	行動値	8
感覚	2		0			2	(非装備時)	8
精神	4		0			4	戦闘移動	23
社会	1		0		1	2	全力移動	46

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	4		調達	6	
運転:			芸術:			知識:			情報:ヒーロー	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手		0		+11		
ファイナルアタックライド	白兵	12r+11		34		
ファイナルアタックライド(100↑)	白兵	16r+11		41		
ファイナルアタックライド	白兵	12r+11		43		+喰らわれし費

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
ディケイドライバー(アーマメントベルト)		12			セットアップで使用。シーン間素手の攻撃力:+8

合計装甲: 12 合計回避: 0

所持品	
コネ:ヒーローマニア	コネ:嗜好きの友人
コネ:UGN幹部	思い出の一品
カテゴリ:ベテラン	
ヒーローズクロス	
ライドブッカー(アクセサリー)	
エンチャント	
エクスペローラーズブーツ	
パワーソース:サイエンス	
メモリー1	
メモリー2	
マシンディケイダー(バイク)	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
秘密兵器	P	N		
家族 RE	P 遺志	N 悔悟		
字白蘭花 WH	P 誠意	N 不安		
No.0016	P 庇護	N 猜疑心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 16 残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
俊足の刃	3	3	メジャー	武器		対決		
効果: 判定ダイス+『Lv+1』								
魔王の理	5	2	メジャー			対決		
効果: 攻撃力+『Lv×2』								
Cレイト:パロール	2	2	メジャー					
効果: C値-Lv								
黒の咆哮	3	4	メジャー			対決	80↑	
効果: 攻撃力+『Lv×4』判定ダイス-2								
時間凍結	1	5	イニシアチブ	至近	自身	自動	80↑	
効果: イニシアチブでメインプロセスを行なう。行動済みにならず、行動していても使用可能								
喰らわれし費	3	1	オート	至近	自身	自動		
効果: ダメージ付与時、シーン間攻撃力+『Lv×3』								
漆黒の波濤	1	3	メジャー	武器	範囲(選択)	対決		
効果: 素手の攻撃対象→範囲(選択)1R1回								
原初の白:バリアクラッカー	1	6	メジャー	武器		対決	80↑	
効果: ガードさせずに、装甲無視								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 相手の判定を失敗させる。								
セットバック	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果: パステをLv回復 付与直後に宣言								
原初の虚:夜魔の領域	1	22	オート	至近	自身	自動	120↑	
効果: メイン直後に使用。未行動、行動値0になる。1Rに1回、1シナリオにLv回まで使用可								
イーザーフェイス:擬態の仮面	1		メジャー	至近	自身	自動		
効果: カメンライド、フォームライド								
ディメンジョンゲート	1		メジャー	至近	参照	自動	3	
効果:								

俺が4人兄弟の三男として生まれ育った家は、他の家との変わりはないほど一般的な家庭だ。だが、そんな中でも俺は兄弟たちと笑い合い、両親に深く愛情を注がれ幸せに暮らしてきた。

あいつらが現れるまでは.....

俺が16歳のとき、俺たち家族とはあるヴィランに誘拐され、そこで幾多のおぞましい拷問や仕打ちを受けた。

一人、また一人と愛する家族が死んでいくなか、若い俺は恐怖で震えるばかりだった。

だが、俺は隙を見て逃げ出すことができた。

父と母が俺を逃がしてくれたのだ。

だが、俺は家族を置いて逃げるのができなかった。

無我夢中で奴らの基地にもどったとき、俺は地獄を見た。

俺の愛する父と母、妹、そして拷問で死んでいった兄たちはおぞましい怪物を生成するための実験の材料にされていたのだ。

やつらによって、"俺の家族だった"その怪物は解き放たれ、目の前の俺に容赦なく襲い掛かってきた。

その姿は、かつて人だったものとは思えぬほどの、形容しがたいものであった。

